



沖縄 Marine Link はた養殖の概要

(認証番号：JFRCA161703A)

沖縄 Marine Link はた養殖の概要

基本情報	
対象者	まりんりんく : Marine Link 株式会社
代表者	あまの ふみお : 代表取締役社長 天野 文男
対象者所在地	おきなわけんしまじりぐんいへやそんがきや : 沖縄県島尻郡伊平屋村字我喜屋 217-30
養殖魚種	: ハタ類 (ヤイトハタ、チャイロマルハタ)
養殖方法	: 小割生簀養殖法
養殖漁場	いへやじま : 伊平屋島周辺の浅海海域

Marine Link 株式会社所在地



沖縄県広域図

Marine Link（マリンリンク）はた類養殖のポイント

- 陸上閉鎖式養殖を行っているため、環境に左右されず、安定したハタ類養殖を実現。
- すべての水槽を番号で管理し生産履歴を把握するとともに、消費者に対する情報提供を行っている。
- 餌や種苗に配慮し、安定した品質のハタ類を養殖。

【県内唯一の陸上閉鎖式養殖】

ハタ類は漁獲の他に海面養殖も盛んに行われているが、沖縄県では近年、新たな需要が見込まれている、ヤイトハタについて、陸上養殖の実用化を目指し試験研究を行っている。マリンリンクのある沖縄県伊平屋村では、この陸上養殖を推進し、年間出荷量 20t を目指して養殖を進めている。

陸上養殖は、海上養殖と比較して稚魚期における生残率が高いという特徴がある。



ヤイトハタ

※出典：沖縄県漁業協同組合連合会

【陸上閉鎖式養殖の特徴】

1) 飼育海水の殺菌処理

海面養殖では一般的にシガテラ毒を有する小魚等が養殖いけす内に侵入することがあるが、これをハタが捕食することにより、ハタにシガテラ毒※が含まれる可能性がある。一方、陸上養殖では飼育海水を紫外線、銅イオンで殺菌処理していることから、海水からの汚染の影響を受けにくい。毎日、水質（溶存酸素量、水温）をチェックし記録を行っている。

※シガテラ毒：熱帯の海洋に生息するプランクトンが保有する毒素。生物濃縮により様々な種類の魚に含有され、接種すると中毒症状が出る。熱に強く一般的な調理では中毒を防ぐことはできない。

2) 計画的な生産管理が可能

陸上養殖の場合、海上気象の影響を受けずに給餌や清掃等の飼育が可能であり、養殖魚

の健康管理がしやすく、計画的な生産が可能である。特に沖縄県では台風の影響を受けやすい地域であるが陸上養殖であれば天候に左右されず、いけすの崩壊等の養殖魚の逃亡リスクが全くないため在庫管理がしやすく、安定的な生産が可能である。

3) 生産履歴の明らかな安心安全な養殖が可能

マリリンクではハタ類の陸上養殖に用いている 50 トン水槽 24 基全てに水槽番号を付して種苗導入時から出荷までの管理を行い、生産履歴を厳密に管理し、消費者に情報提供を行っている。海岸の中層からの採取した海水を、ろ過、紫外線・銅イオンで殺菌し、使用しているため衛生的に飼育されており、今までに水産用医薬品の使用実績はない。またマリリンクは『沖縄ミーバイ※生産者販売促進協議会』等が実施する研修会等に参加し、養殖魚の衛生管理等の講習を受けている。

※ミーバイ：沖縄の方言でハタ類のこと

【品質の安定化のための工夫】

マリリンクのハタ類陸上養殖では、餌は飼料安全法に適合しているメーカーの餌だけを使用し、それを過去の育成ノウハウに基づいて配合したものを与えている。小魚を原料とする生餌は季節によって油脂含有量等に変動があるため与えた養殖魚の品質が安定しないが、配合飼料は含まれる栄養分にばらつきがなく均一であるため、養殖魚の身質の安定化が可能である。

また、種苗はすべて沖縄県栽培漁業センターより入荷している。同センターでは養殖に適応が高く、高い生残率が期待される親魚を使用して種苗生産を行っている。質の良い種苗、陸上養殖ならではのきめ細かな品質管理体制により、安定的な安心で高品質なハタの供給が可能となっている。

